

第一経大論集

第17巻 総目次

第 17 巻

第 1 号

昭和 62 年 6 月 30 日 発行

<論 説>

- 均衡と不均衡（あるいは虚構と現実）(VI)
—均衡解の存在問題— ……………甲斐原 一 朗
- 情報化社会経済論 ……………岩 永 房 夫
- 吉田松陰の教育（その一） ……………橋 田 義 雄
- Maugham の精神的探求「The Razor's Edge」論
……………田 中 正 志

<研究ノート>

- 我国における最低賃金制の成立とその背景 ……………浦 川 安 宏
- 特定多数を使う委員会の決定について
—DUNCAN BLACK の解釈— ……………佐々木 正 廣
- Lafcadio Hearn の Byron 観について（2） ……………楠 本 哲 夫

第 2 号

昭和 62 年 9 月 30 日 発行

<論 説>

- 吉田松陰の教育（その二）……………橋 田 義 雄
裏切りの寓意
—The Complaint unto Pity の解釈—……………西 田 栄 毅

<研究ノート>

- 袂別の賦—Byron（1）……………楠 本 哲 夫

<翻 訳>

- LANGUAGE ALIVE
英語は生きている……………著 アラン・ブース
訳 真 崎 良 幸

<研究ノート>

- 幕末から明治初年にかけての久留米藩飛脚……………小 川 喬 義

第 3 号

昭和 62 年 12 月 31 日 発行

<論 説>

- 永懐・ラートブルフ……………渡 辺 弘
アメリカ経済の国際競争力回復の一原点
—1985年9月・G5 プラザ合意シナリオの期待の反省—
……………戸 波 徹 雄
権利能力なき社団に関する一考察（I）……………国 府 新 助

<研究ノート>

- 土地とコメと農協……………甲斐原 一 朗
原価計算の発展に関する一考察（1）
—P. S ガーナーの「原価計算の歴史的発展」に基づいて—
……………西 島 恒 憲
袂別の賦—Byron（2）……………楠 本 哲 夫

<論 説>

進行する巨大債務への米国民の挑戦と
日本の対米政策協調のスタンス
—1987年 8 月10日発表の米国上下両院

合同経済委員会提出報告書、
「年央の経済—対外債務の遺産」
が訴える困難な課題—

……………戸 波 徹 雄

わが国の流通政策の展開

……………岩 永 忠 康

Maugham の「Catalina」論

……………田 中 正 志

<研究ノート>

日本の食糧問題

—食用農産物の自給率を巡って—

……………相 浦 宗 男

福岡市能古島の肥前系磁器窯遺跡についての—考察

……………三 野 章

袂別の賦——Byron (3)

……………楠 本 哲 夫

<翻 訳>

自由, その名はサマーヒル (2)

……………著 A. S. Neill
訳 真 崎 良 幸